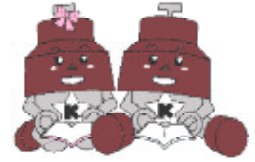




150号 2015.3

# 川口市立図書館 図書館だより



パソコン用ホームページ URL <http://www.kawaguchi-lib.jp/>

携帯電話用ホームページ URL <http://www.kawaguchi-lib.jp/opw1/IMD/IMDMAIN.CSP>



QRコード →

## わたしの今年の一冊 2014

昨年お読みになった本の中で、印象に残った一冊をあげていただく「わたしの今年の一冊」は、今回で19回目となりました。たくさんのご応募をいただきましたが、紙面の関係で32点、掲載させていただきます。

### 「海辺のカフカ」上・下 村上春樹／著

新潮社 2002年刊 913.6/ム

初めて村上春樹の本を読みましたが、その不思議な世界に圧倒されました。二つの物語が少しずつ重なっていく感じは読んでいてとてもときどきさせられました。ふと、また読みたくなるような本です。(10代 女性)

### 「紙つなげ！ 彼らが本の紙を造っている」

佐々涼子／著 早川書房 2014年刊 585.0/サ

本好きとしては気になる本でした。あの酷い被害の中、無理に思われた作業をやり遂げたこと、感銘を受けました。メディアセブンでのトークライブで、本にできなかったお話も伺えて、記憶に残る一冊です。(40代)

### 「きみは赤ちゃん」 川上未映子／著

文藝春秋 2014年刊 916/カ

”お母さん”から生まれた全ての人に読んでほしい。私のお母さんも私が生まれた時、こんな風にとおしく大切におもってくれていたのだろうか。これから”お母さん”になる人には一般書には載っていないリアルな”妊娠出産育児”を知る事のできる一冊です。(30代 女性)

### 「犬心」 伊藤比呂美／著

文藝春秋 2013年刊 914.6/イ

のっけから魂をつかまれた！大笑いで涙ポロポロになった。ジャーマンシェパードの「タケ」の晩年とチワワの「ニコ」、パピヨンだった!?父の犬「ルイ」、それぞれの関係、つながり、苦労を重く語らず、毎月のようにカリフォルニア⇄熊本間を父の介護に通うのは想像を絶するが、著者の豪快さが爽快である。(50代 女性)

### 「富士日記」上・中・下 武田百合子／著

中央公論新社 2002年刊 B915.6/タ

昭和39年から51年まで、作家の武田泰淳氏と奥さんの百合子さんが、富士山麓に建てた山荘での生活の様子を記した日記です。これを読むと、本当に日本人は富士山が大好きなんだな、とおもいます。その当時から「弾丸登山」などをする人たちも多く、驚きました。

日記には、ちょっとした買い物メモなどもあり、卵の値段が10個で、百数十円という値段にもびっくりです。お二人とも、もう故人ですが、富士山が世界遺産になったと知ったら、きっと喜んでいいると思います。(50代 女性)

### 「あすなる三三七拍子」 重松清／著

毎日新聞社 2010年刊 913.6/シ

45歳の中年サラリーマンが「あすなる大学応援団」へ出向という設定が面白く読み始めたが、ページをめくるとたびに笑ったり、泣いたり、一気に読めた。私たちは”誰かに応援され、また誰かを応援して生きている”。そんな大切なことに気がつくことのできた一冊。(50代 女性)

### 「大事なことほど小声でささやく」

森沢明夫／著 幻冬舎 2013年刊 913.6/モ

人は一人じゃないと思わせてくれる一冊。(40代 女性)

「天の梯」 高田郁／著

角川春樹事務所 2014 年刊 B913.6/タ

人々の助けを得ながら、初心を貫いた、主人公の努力、強さ、やさしさ、人間としての染みいるような清らかさを感じた。「『叱責』を正しく理解し将来の宝とする」。頭がたれます。(60代 女性)

「和菓子のアン」 坂木司／著

光文社 2010 年刊 913.6/サ

和菓子をテーマにしているのが面白い。和菓子は地味という印象が強いが、この本を読むと、和菓子ってものすごく自己主張があって、四季折々に楽しめるものなのだと思えて、腰を上げて 和菓子を買に行きたくなる。登場人物も魅力的で、和菓子屋でバイトしたくなってしまう続編期待の1冊だ。(50代 女性)

「東京タクシードライバー」 山田清機／著

朝日新聞出版 2014 年刊 685.5/ヤ

いろいろと人生経験をした人がタクシー会社に受け入れてもらい、それなりにガンバッテいる姿に感動。人と人とのつながり。「やはり人間関係が大事」とつくづく思いました。(70代 女性)

「黒猫のひたい」 井坂洋子／著

幻戯書房 2014 年刊 914.6/イ

とりたてて変わった事ではなく、普段の生活のすぐそばにあるものとして「死」や「言葉」について淡々とつづった文章が、心に沁みます。挿絵も文章にマッチしていて読み終えるのが惜しくなり、わざとゆっくり読みました。(20代 女性)

「少なくとも三兎を追え 私の県立浦和高校物語」

関根郁夫／著

さきたま出版会 2014 年刊 376.4/セ

著者の教育者としての姿勢もよく伝わってくるし、何より浦高生の生活が生き生きと伝わって来ました。(年齢性別不明)

「ペコロスの母に会いに行く」 岡野雄一／著

西日本新聞社 2012 年刊 916/オ

私も母を介護していたので、この本を読んでとても共感できた。おだやかな優しい時間が作者とお母さんとの間に流れていて、私も母の笑顔や母と暮らした思い出がよみがえった。また読みたいです。(50代 女性)

「認知症とわたしたち」 朝日新聞取材班／著

朝日新聞出版 2014 年刊 493.7/ニ

認知症患者の人としての心とそれを支える家族、施設の人々の思いがつまっている。ひと事ではないと痛切に感じた。写真も多く理解しやすい内容なので、ぜひ沢山のの人に読んでもらいたいと思った。

(50代 女性)

「天に星 地に花」 帚木蓬生／著

集英社 2014 年刊 913.6/ハ

久留米藩で起きた二度の農民一揆。「医は仁術」を実践する医師に命を救われた事から医師を目指し名医となる主人公。『慈愛』を軸に物語が進行する。人生で人との出会いがいかに大切か、「良き人との出会いは財産である」を痛切に感じる小説です。(70代 女性)

「かんかん橋を渡ったら」 あさのあつこ／著

角川書店 2013 年刊 913.6/ア

食堂の「ののや」の一人娘真子の成長に感動しました。新しい母親……。その母親に対する悪口を聞き、怒ってけんかをして……。だんだん3人での生活が慣れてきた時に父の突然の死……。すべてを受入れ、かんかん橋のある自分の町に残り母とともに食堂をつづける決心をした真子はすごいなあと感心し、また感動しました。(10代 女性)

「パプリカ」 筒井康隆／著

中央公論社 1993 年刊 913.6/ツ

人の夢の中にダイブする事のできるまさに「夢」のような機械を開発した精神医学研究所。主人公はその機械をめぐる様々なトラブルに巻きこまれていく。人の潜在意識の具現化した夢の世界とそれをとりまく人の欲望が組織の中の派閥争いという形で表現できている作品だと思いました。(20代 男性)

「花に舞う鬼」 東芙美子／著

文藝春秋 2005 年刊 913.6/ア

歌舞伎への興味が、がぜん湧いてきます。面白いですよ。(50代 女性)

「沈黙の町で」 奥田英朗／著

朝日新聞出版 2013 年刊 913.6/オ

子を持つ親にオススメしたい本です。(70代 男性)

### 「統合失調症がやってきた」

ハウス加賀谷・松本キック／著  
イースト・プレス 2013年刊 779.1/ハ

当事者である芸人 加賀谷(及び相手)による闘病記。他の統合失調症に関する本と比べてわかりやすく、そのリアルな描写に圧倒され、魂をも揺さぶられた。人を怨む、世間を呪う「負の力」でなく「正の力」で生きて行こうと心を改め、長い年月をかけて社会復帰を果たす。正に感動の一冊である。(60代 女性)

### 「八甲田山死の彷徨」 新田次郎／著

新潮社 2002年刊 B 913.6/ニ

冬山へ2つの部隊が行軍させる人体実験が描かれ、迫力を感じた。遭難し極限状態におかれたときの人間の錯乱がリアルに感じとれた。近年の登山ブームに対しても軽率な行動は許されないと警鐘を鳴らしてくれる作品だと思う。(10代 男性)

### 「なぜビニール傘を3本以上持っている人は

貧しいのか？」 午堂登紀雄／著  
ぶんか社 2013年刊 159/コ

わかりやすい題名とその結論の意外さに惹きつけられ思わず読んでしまいました。著者の理論が単なる思いつきではなく読者を納得させるだけの根拠が示されていてなるほどと思いました。自分の身の回りの整理整頓を促される本です。(40代 男性)

### 「ねずみに支配された島」

ウィリアム・ソウルゼンバーグ／著  
文藝春秋 2014年刊 481.7/リ

ねずみのために文明が滅んだという説があるのが驚きです。島という閉ざされた場所で進化した固有種が、島に侵入したねずみのために絶滅してしまうというのは、日本も島国。考えさせられました。(50代 女性)

### 「いのち」が喜ぶ生き方」 矢作直樹／著

青春出版社 2014年刊 147/ヤ

医療に関することから心や魂、そして生き方に至るまで、平易な言葉を選んでわかりやすく書かれた文章からは、先生の温かく穏やかなお人柄を感じることができません。内容も、特別なことや難しいことは書かれていないと思うのですが、この本を読んだ人が自身を省みた時、改めてその奥深さに気付くのではないのでしょうか。(女性)

### 「見つけて楽しむきのこワンダーランド」

大作晃一／写真 吹春俊光／文  
山と溪谷社 2004年刊 474.8/オ

写真がきれい。レイアウトがおもしろい。文章が楽しい。目の前にあるきのこを調べるには適していないが、きのこの世界を楽しみながら、知ることができる。(50代 女性)

### 「こころ」 夏目漱石／著

新潮社 2004年刊 ほか B913.6/ナ

一見男女のプラトニックな三角関係を扱う恋愛小説の外見をしていますが、その本質は人間のエゴそのものを扱った作品です。自分が恋愛の当事者になった時、それを成就させるためには、思慮分別のある人でも競争相手を陥れることを何でもしてしまう。そんな人間の心の闇を描いた作品です。今恋愛で悩んでいる人は読んではいけな作品です。(40代 男性)

高校生の時に読んだが、再読してみて改めて感動した。究極のエゴイズム作品である。(50代 男性)

### 「アンダーカバー」 真保裕一／著

小学館 2014年刊 913.6/シ

無実の罪を着せられた若き実業家が名前も顔も変えて、真実をつきとめようとする。たった一人で調査をしていく強さに感動。(50代 女性)

### 「平和と命こそ」 日野原重明／共著

新日本出版社 2014年刊 323.1/ハ

現在日本は世界に名高い平和国家であるという誇りを持つことのできる素晴らしい本です。(70代 男性)

### 「野火」 大岡昇平／著

新潮社 2014年刊 ほか B913.6/オ

とても衝撃的で印象に残る作品。(10代 男性)

### 「千思万考」 黒鉄ヒロシ／著

幻冬舎 2011年刊 281.0/ク

歴史のおもしろさ、深さが伝わってくる。(60代)

### 「だから荒野」 桐野夏生／著

毎日新聞社 2013年刊 913.6/キ

普通の主婦の話なんだけど、普通じゃありえないことばかりなのが面白かった。(50代 女性)

### 「花はさくら木」 辻原登／著

朝日新聞社 2006年刊 913.6/ツ

ありえないこともあったらいいな！と思わせる語り口に酔いました。(年齢性別不明)

- 「現代化学史」廣田襄 ○「明治の表象空間」松浦寿輝 ○「菜の花の沖 1～6巻」司馬遼太郎
- 「孫正義語録」孫正義語録製作委員会 ○「『ニセ医学』に騙されないために」NATOROM(ナトロム)
- 「スーパーマーケットの便利帖」 ○「古琉球(コリュウキュウ)」伊波普猷(イハ フユウ)
- 「フレディの遺言」フレディ松川 ○「都会(まち)のトム&ソーヤシリーズ」はやみねかおる
- 「虚ろな十字架」東野圭吾 ○「日本の大和言葉を美しく話す」高橋こうじ ○「道草」夏目漱石
- 「『ぼくら』シリーズ」宗田理 ○「老荘と仏教」森三樹三郎(モリ ミキサブロウ)
- 「神様のカルテ」夏川草介 ○「わがいのち月明に燃ゆ」林尹夫 ○「新選組組長 齋藤一」菊地明
- 「かいけつゾロリシリーズ」はらゆたか ○「チョコブラウニーですなおに笑顔」令丈ヒロ子
- 「ドレミを選んだ日本人」千葉優子 ○「大河の一滴」五木寛之 ○「きみはいい子」中脇初枝
- 「最後の証人」柚月裕子 ○「なんでも魔女商会シリーズ」あんびるやすこ
- 「白い虎の月 タイガーズカースシリーズ」コリーン・ハウック ○「図書館戦争」有川浩
- 「紫陽花茶房(あじさいさぼう)へようこそ1・2」かたやま和華 ○「アリアンの歌」ニム・ウェールズ
- 「くんちゃんのはじめてのがっこう」ドロシー・マリノ ○「僕が最後に言い残したかったこと」青木雄二
- 「1Q84 BOOK 1～3巻」村上春樹 ○「愛を見つけたうさぎ」ケイト・ディカミロ
- 「虹色ほたる」川口雅幸 ○「パーシージャクソンとオリンポスの神々シリーズ」リック・リオーダン
- 「コロンブス提督伝」エルナンド・コロソ ○「ジャンヌ・ダルクの実像」レジーヌ・ペルヌー
- 「私と20世紀のクロニクル」ドナルド・キーン ○「みえる詩あそぶ詩きこえる詩」はせみつこ
- 「広辞苑の嘘」谷沢永一 ○「伯爵と妖精 新たなるシルヴァンフォードにて」谷瑞恵 …ほか

紙面の関係で、お寄せいただいたご感想や書名のすべては掲載できませんでした。

ご協力いただきました皆様、ありがとうございました。

☆ お読みにになりたい本が見あたらない時は、カウンターでおたずねください ☆

## 移動図書館「あおぞら号」の巡回時間変更のお知らせ

移動図書館利用者の利便性の向上を目指し、利用しやすい環境を整えるため、次のとおり全面的に巡回時間を変更いたします。

**4月から【午前の巡回時間】10:30～11:30 【午後の巡回時間】15:00～16:10**

※「東内野団地」は14:20～15:00、「江川運動広場」は15:30～16:10